

# 学びの創造

## ★「まなびの総合エリア」第1回フォーラムが開催されました

1月29日（土）、秋田大学60周年記念ホールにおいて、「まなびの総合エリア」を核とした教員養成と現職研修の統合—教師教育の秋田モデルを目指して—をテーマに「第1回まなびの総合エリアフォーラム」が開催されました。フォーラムには、本学や他大学教員、県内小中学校教師ら約170名が参加しました。このフォーラムは、本教育実践研究支援センターを拠点として、本年度よりスタートさせた文科省特別経費による「まなびの総合エリア」プロジェクト事業として行ったものです。第1回フォーラムは、プロジェクトのスタートを内外に公開することを企図し、当日は、具体的な事業内容および中間報告が石黒、神居、石橋、斎藤、姫野、佐川から紹介されました。続いて、文科省・渡邊倫子教員養成企画室長と福井大学・松木健一教授による講演が行われ、渡邊氏からは、教員養成学部における諸課題やこれから求められる取り組みなど示唆に富んだ内容が語られ、松木氏からは、先進的な教員養成に着手し優れた実績を挙げている福井大学の実践例など興味深い話題が紹介されました。さらにプロジェクトから浦野、神居と秋田県教育委員会・福田世喜総合教育センター所長、秋田市立明德小学校・石川勲校長によるパネルディスカッションが行われました。「秋田の先生、学校をいかに育むか」をテーマに、指定討論者として松木氏にも加わっていただき、秋田県の学校教育、教師教育に関する事例報告などを通して、教員養成および教職研修の将来について意見を交換しました。



多面的な事業が一斉にスタートし、その方向性が発散傾向にあるこのプロジェクトですが、本フォーラムを通じて「教師力の向上を目指す多面的プロジェクト」であることを再確認できました。なお、学部教員の出席が少なかったことが、少し悔やまれます。

## ★国立大学教育実践関連センター協議会に出席しました

2月18日（金）、東京学芸大学・小金井キャンパスにおいて本年度2回目となる国立大学教育実践関連センター協議会が開催され、本学からは、浦野、柴田、神居、姫野、宮野が出席しました。学校教育の現場は、多様化する価値観、複雑化する社会構造、さらに少子化に対応する大きな変革を求められています。総会では、教員養成学部の位置づけが問われる厳しい現状の中で、今後、国立大学における各センターのさらなる連携への提言がなされました。続いて、デジタル教科書に関する進展状況の報告がありました。情報通信技術の目覚ましい進歩は、学校教育におけるこれまでの方法論を大きく変化させようとしているようです。一方向・一斉授業か個別学習かの議論ではなく、多様な可能性に開けた教育のモデルが検討され、実証研究が進められています。本学では、すでにいくつかの教室に電子黒板が設置され、新たな学習方法に対応すべく着実に準備が整えられています。総会の場で、新年度役員を選出が行われ、本センターの浦野が副会長に、姫野が役員に承認されました。午後は、教育工学部門、教育情報部門、教育臨床部門の分科会が行われました。教育臨床部門では、出席した各大学の研究事業活動の報告が行われました。

【編集後記】今年も充実した一年を終えることができました。進化をとげるセンターにご期待ください。

問い合わせ先：教育実践研究支援センター 018-889-2700 E-mail：office@cerp.akita-u.ac.jp